

【薬用作物産地支援 栽培技術研修】

研修会	開催日	集合場所	研修会場	現地研修場所
北海道	10月1日(木)~2日(金)	南千歳駅 (JR北海道)	千歳アルカディアプラザ (千歳市)	J A 道央
東北	11月12日(木)~13日(金)	角館駅 (JR東日本)	角館交流センター (秋田県仙北市)	仙北市薬草生産組合
関東・北陸	9月9日(水)~10日(木)	新潟駅前 (JR東日本)	駅南貸会議室KENTO (新潟県新潟市)	新潟市農林水産部農業活性化研究センター
東海・近畿	10月12日(月)~13日(火)	五条駅前 (JR西日本和歌山線)	奈良県橿原文化会館 (奈良県橿原市)	奈良県農業研究開発センター 果樹・薬草研究センター
中国・四国	10月8日(木)~9日(金)	徳島駅前 (JR四国)	ホテル千秋閣 (徳島県徳島市)	徳島県立農林水産総合技術支援センター
九州	12月8日(火)~9日(水)	伊集院駅前 (JR九州鹿児島本線)	日置市中央公民館 (鹿児島県日置市)	鹿児島県薬草生産組合

※ 集合場所～現地研修～研修会場はバスで移動します

薬用作物産地支援 栽培技術研修 北海道会場

研究実施主体： 薬用作物産地支援協議会

受講対象者： 普及指導員、営農指導員、市町村職員、その他薬用作物の産地育成関係者

研修目的： 薬用作物の産地形成・栽培技術指導の確立、産地の生産性向上

研修実施場所： 千歳アルカディア・プラザ 多目的ホール（千歳市柏台南1丁目3-1）

実施時期： 10月1日(木)～2日(金)

	時間	研修科目	内容	講師	所属
10月1日 (木)	13:00-13:20 (20分)	12:50現地集合 場所：南千歳駅（JR北海道 千歳線） 移動(バス利用)	研修の概要説明	事務局	
	13:30-15:10 (100分)	〔現地研修〕 薬用作物の栽培技術等について	「JA道央」の附子（ぶし：トリカブト）の収穫時期の現地研修を通じて、薬用作物の特徴、収穫後の調製技術等について、今後の支援に必要な知識・技術の理解を深める。		
	15:20-15:40 (20分)	移動(バス利用) →研修会場		事務局	
	16:00-17:00 (60分)	〔講義〕 薬用作物の実需者ニーズと今後の国内栽培について	製薬企業の薬用作物調達と漢方薬生産の現状、国内産地化に向けた実需者側の取り組みについて解説する。	小柳 裕和	日本漢方生薬製剤協会生薬国内生産検討班班長
10月2日 (金)	9:00-10:30 (90分)	〔講義〕 薬用作物の栽培技術について（仮題）	地域の生産者からの要望の高い栽培技術について解説する（カンゾウ、シャクヤク、ハトムギ等）	五十嵐 元子	国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 薬用植物資源研究センター北海道研究部 主任研究員
	10:40-12:10 (90分)	〔講義〕 農水省委託プロジェクト研究「薬用作物の国内生産拡大に向けた技術の開発」の取り組み（仮題）	高品質な産品を低コストで安定的に栽培・収穫し、複合経営モデルを実証することを目的としたプロジェクト研究のうち、北海道におけるトウキ、カンゾウについてのこれまでの成果について解説する。	村上 則幸 横田 聡 菊地 原	農研機構北海道農業研究センター 大規模畑作研究領域長 農研機構本部管理本部技術支援部 北海道技術支援センター業務第3科長 株式会社夕張ツムラ 取締役
	12:10-13:10	昼休み			
	13:10-14:40 (90分)	〔情報交流会〕 各地域の薬用作物産地形成における課題と対応	各地域の薬用作物産地形成に向けた課題について情報交換を行うとともに、今後の産地育成支援の進め方を討議する。	講師同席	
	14:40-15:00	閉会	研修に対する評価等についてアンケート調査を実施	事務局	

薬用作物産地支援 栽培技術研修 東北会場

研究実施主体： 薬用作物産地支援協議会

受講対象者： 普及指導員、営農指導員、市町村職員、その他薬用作物の産地育成関係者

研修目的： 薬用作物の産地形成・栽培技術指導の確立、産地の生産性向上

研修実施場所： 角館交流センター（秋田県仙北市角館町中菅沢77-30）第一研修室

実施時期： 11月12日(木)～13日(金)

	時間	研修科目	内容	講師	所属
11月12日 (木)	13:20-13:35 (15分)	13:10現地集合 場所：角館駅前（JR東日本） 移動(バス利用)	研修の概要説明	事務局	
	13:40-15:10 (90分)	[現地研修] 薬用作物の栽培技術等について	「仙北市薬草生産組合」シャクヤク圃場における現地研修で、収穫時期の状況を見学し、薬用作物の特徴、品質評価について、今後の支援に必要な知識・技術の理解を深める。		
	15:15-15:30 (15分)	移動(バス利用) →研修会場		事務局	
	15:40-16:40 (60分)	[講義] 薬用作物の実需者ニーズと今後の国内栽培について	製薬企業の薬用作物調達と漢方薬生産の現状、国内産地化に期待する内容について理解する。	小柳 裕和	日本漢方生薬製剤協会生薬国内生産検討班班長
11月13日 (金)	9:00-10:30 (90分)	[講義] 薬用作物の栽培にあたって（仮題）	地域の生産者から要望の高い栽培技術について解説する（シャクヤク、トウキ等）。	柴田 敏郎	前・国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所薬用植物資源研究センター客員研究員
	10:40-12:10 (90分)	[講義] 農水省委託プロジェクト研究「薬用作物の国内生産拡大に向けた技術の開発」の取り組み（仮題）	薬用作物生産の低コスト化や安定化等を可能とする技術開発を目的とした標記プロジェクトの概要、ならびに地域におけるこれまでの取り組み成果について解説する。	久保 堅司 横井 直人	農研機構東北農業研究センター 農業放射線研究センター 畑作移行低減グループ 上級研究員 秋田県農業試験場野菜・花き部 主任研究員
	12:10-13:10	昼 食			
	13:10-14:40 (90分)	[情報交換会] 各地域の薬用作物産地形成における課題と対応	各地域の薬用作物産地形成に向けた課題について情報交換を行うとともに、今後の産地育成支援の進め方を討議する。	講師同席	
	14:40-15:00	閉会	研修に対する評価等についてアンケート調査を実施	事務局	

薬用作物産地支援 栽培技術研修 関東・北陸会場

研究実施主体： 薬用作物産地支援協議会
 受講対象者： 普及指導員、営農指導員、市町村職員、その他薬用作物の産地育成関係者
 研修目的： 薬用作物の産地形成・栽培技術指導の確立、産地の生産性向上
 受講定員： 20名
 研修実施場所： 駅南貸会議室KENTO（新潟県新潟市）
 実施時期： 9月9日(水)～10日（木）

	時間	研修科目	内容	講師	所属
9月9日 (水)	13:10-13:50 (40分)	13:00現地集合 場所：新潟駅前（JR東日本） 移動(バス利用)	研修の概要説明	事務局	
	14:00-15:20 (80分)	[現地研修] 薬用作物の栽培技術等について	新潟市農業活性化研究センターにおける現地研修で、東京生薬協会との薬用作物栽培に関する連携協定締結での活動内容、薬用作物の特徴、品質評価について、今後の支援に必要な知識・技術の理解を深める。		新潟市農林水産部農業活性化研究センター
	15:30-16:30 (60分)	[講義] 薬用作物の実需者ニーズと今後の国内栽培について	製薬企業の薬用作物調達と漢方薬生産の現状、国内産地化に期待する内容について理解する。	小柳 裕和	日本漢方生薬製剤協会生薬国内生産検討班長
	16:50-17:30 (40分)	移動(バス利用) →研修会場前（解散）		事務局	
9月10日 (木)	9:10-10:40 (90分)	[講義] 薬用作物の栽培技術について（仮題）	東京生薬協会が行っている薬用植物の国内栽培に対する支援事業を通じた栽培技術指導から、薬用作物の国内栽培における要点と課題を解説する。	小谷 宗司	前・信州大学特任教授 公益社団法人東京生薬協会 薬用植物国内栽培事業委員会委員長
	10:50-12:00 (70分)	[講義] 農水省委託プロジェクト研究「薬用作物の国内生産拡大に向けた技術の開発」の取り組み	トウキ、ミシマサイコ等の主要5品目について高品質化、低コスト化および生産の安定化を可能とする技術開発の推進を目的としたプロジェクト研究のうち、新潟県と富山県で取り組んでいるこれまでの成果について解説する。	諸橋 修一 田村 隆幸	新潟県農業総合研究所中山間地農業技術センター専門研究員 富山県薬事総合研究開発センター 薬用植物指導センター主任研究員
	12:00-13:00	昼休み			
	13:00-14:30 (90分)	[情報交換会] 各地域の薬用作物産地形成における課題と対応	各地域の薬用作物産地形成に向けた課題について情報交換を行うとともに、今後の産地育成支援の進め方を討議する。	講師同席	
	14:30-14:50	閉会	研修に対する評価等についてアンケート調査を実施	事務局	

薬用作物産地支援 栽培技術研修 東海・近畿会場

研究実施主体： 薬用作物産地支援協議会

受講対象者： 普及指導員、営農指導員、市町村職員、その他薬用作物の産地育成関係者

研修目的： 薬用作物の産地形成・栽培技術指導の確立、産地の生産性向上

研修実施場所： 奈良県橿原文化会館 第1会議室（奈良県橿原市北八木町3-65-5）

実施時期： 10月12日(月)～13日(火)

	時間	研修科目	内容	講師	所属
10月12日 (月)	13:15-13:30 (15分)	13:05現地集合 場所：五条駅前（JR西日本） 移動(バス利用)	研修の概要説明	事務局	
	13:30-15:10 (100分)	〔講義・現地研修〕 農水省委託プロジェクト「薬用作物の国内生産拡大に向けた技術の開発」関連の実証圃場見学	標記プロジェクトのうち、「トウキを核とした複合経営モデルの開発」に関する実証圃場の見学とこれまでの取り組み成果を紹介する。	米田 健一	奈良県農業研究開発センター果樹・薬草研究センター指導研究員
	15:10-16:10 (60分)	移動(バス利用) →研修会場		事務局	
	16:30-17:30 (60分)	〔講義〕 薬用作物の実需者ニーズと今後の国内栽培について	製薬企業の薬用作物調達と漢方薬生産の現状、国内産地化に期待する内容について理解する。	白鳥 誠	日本漢方生薬製剤協会生薬委員会委員長
10月13日 (火)	9:00-10:30 (90分)	〔講義〕 薬用作物の国内栽培技術について（仮題）	国内栽培の期待が高い薬用作物の栽培技術について解説する。（ミシマサイコ、シャクヤク、ジュウヤク、トウキ等）	酒井 英二	岐阜薬科大学 薬草園研究室 教授
	10:40-12:10 (90分)	〔講義〕 農水省委託プロジェクト研究「薬用作物の国内生産拡大に向けた技術の開発」の取り組み	トウキ、ミシマサイコ等の主要5品目について高品質な産品を低コストで安定的に栽培・収穫し、複合経営モデルを実証することを目的としたプロジェクト研究の目標やこれまでの成果について解説する。	川嶋 浩樹 米田 健一	農研機構西日本農業研究センター 畑作園芸研究領域 施設野菜生産グループ長 奈良県農業研究開発センター果樹・薬草研究センター指導研究員
	12:10-13:10	昼食			
	13:10-14:40 (90分)	〔情報交流会〕 各地域の薬用作物産地形成における課題と対応	各地域の薬用作物産地形成に向けた課題について情報交換を行うとともに、今後の産地育成支援の進め方を討議する。	講師同席	
	14:40-15:00	閉会	研修に対する評価等についてアンケート調査を実施	事務局	

薬用作物産地支援 栽培技術研修 中国・四国会場

研究実施主体： 薬用作物産地支援協議会

受講対象者： 普及指導員、営農指導員、市町村職員、その他薬用作物の産地育成関係者

研修目的： 薬用作物の産地形成・栽培技術指導の確立、産地の生産性向上

研修実施場所： ホテル千秋閣 孔雀（徳島県徳島市幸町3丁目55番地）

実施時期： 10月8日(木)～9日(金)

	時間	研修科目	内容	講師	所属
10月8日 (木)	12:50- 13:30 (40分)	12:40現地集合 場所：徳島駅前（JR四 国） 移動(バス利用)	研修の概要説明	事務局	
	13:30- 15:00 (90分)	〔講義・現地研修〕 農水省委託プロジェクト「薬用 作物の国内生産拡大に向け た技術の開発」関連の実証圃 場見学	標記プロジェクトのうち、「ミシマサイコ」の導入 による小規模園藝経営における複合生産体 系の開発に関する実証圃場の見学とこれま での取り組み成果を紹介する。	高木和彦	徳島県立農林水産総合技 術支援センター 農産園芸研究課 主席
	15:00- 15:40 (40分)	移動(バス利用) →研修会場		事務局	
	16:00- 17:00 (60分)	〔講義〕 薬用作物の実需者ニーズと今 後の国内栽培について	製薬企業の薬用作物調達と漢方薬生産の 現状、国内産地化に期待する内容について 理解する。	白鳥 誠	日本漢方生薬製剤協会生 薬委員会委員長
10月9日 (金)	9:00- 10:30 (90分)	〔講義〕 薬用作物の栽培にあたって (仮題)	地域で有望なミシマサイコ、キキョウ等の栽培 技術について解説する。	飯田 修	国立研究開発法人医薬 基盤・健康・栄養研究所 薬用植物資源研究セン ター 客員研究員
	10:40- 12:10 (90分)	〔講義〕 農水省委託プロジェクト研究 「薬用作物の国内生産拡大 に向けた技術の開発」の取り 組み	トウキ、ミシマサイコ等の主要5品目について 高品質な産品を低コストで安定的に栽培・ 収穫し、複合経営モデルを実証することを目 的としたプロジェクト研究の目標やこれまでの 成果について解説する。	川嶋 浩樹 白石 豊 津田 毅彦	農研機構西日本農業研究セ ンター 畑作園芸研究領域 施設野菜生産グループ長 愛媛県農林水産研究所 農 業研究部 野菜育種栽培室 主任研究員 徳島県立農林水産総合技術 支援センター経営研究課 研 究係長
	12:10- 13:10	昼 食			
	13:10- 14:40 (90分)	〔情報交流会〕 各地域の薬用作物産地形成 における課題と対応	各地域の薬用作物産地形成に向けた課題 について情報交換を行うとともに、今後の産 地育成支援の進め方を討議する。	講師同席	
	14:40-15:00	閉会	研修に対する評価等についてアンケート調査 を実施	事務局	

薬用作物産地支援 栽培技術研修 九州会場

研究実施主体： 薬用作物産地支援協議会

受講対象者： 普及指導員、営農指導員、市町村職員、その他薬用作物の産地育成関係者

研修目的： 薬用作物の産地形成・栽培技術指導の確立、産地の生産性向上

受講定員： 20名

研修実施場所： 日置市中央公民館 研修室2・3（鹿児島県日置市伊集院町郡1丁目100）

実施時期： 12月8日(火)～9日(水)

	時間	研修科目	内容	講師	所属
12月8日 (火)	13:20-14:00 (40分)	13:10 現地集合 場所：伊集院駅前（JR九州鹿児島本線） 移動(バス利用)	研修の概要説明	事務局	
	14:00-15:30 (90分)	〔講義・現地研修〕 薬用作物の栽培技術等について	「鹿児島県薬草生産組合」ミシマサイコ圃場における現地研修で、収穫時期の状況を見学し、薬用作物の特徴、品質評価について、今後の支援に必要な知識・技術の理解を深める。		
	15:30-16:10	移動(バス利用) →研修会場		事務局	
	16:30-17:30 (60分)	〔講義〕 薬用作物の実需者ニーズと今後の国内栽培について	製薬企業の薬用作物調達と漢方薬生産の現状、国内産地化に期待する内容について理解する。	白鳥 誠	日本漢方生薬製剤協会生薬委員会委員長
12月9日 (水)	9:00-10:30 (90分)	〔講義〕 薬用作物の栽培にあたって (仮題)	地域で有望なミシマサイコ、キキョウ等の栽培技術について解説する。	飯田 修	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所薬用植物資源研究センター 客員研究員
	10:40-12:10 (90分)	〔講義〕 農水省委託プロジェクト研究「薬用作物の国内生産拡大に向けた技術の開発」の取り組み	トウキ、ミシマサイコ等の主要5品目について高品質化、低コスト化および生産の安定化を可能とする技術開発の推進を目的としたプロジェクト研究の目標やこれまでの成果について解説する。	川嶋 浩樹 月足 公男 吉田 勝一郎	農研機構西日本農業研究センター 畑作園芸研究領域施設野菜生産グループ長 佐賀県農業試験研究センター三瀬分場 山間農業研究担当係長 宮崎県総合農業試験場 薬草・地域作物センター 主任研究員
	12:10-13:10	昼食			
	13:10-14:40 (90分)	〔情報交換会〕 各地域の薬用作物産地形成における課題と対応	各地域の薬用作物産地形成に向けた課題について情報交換を行うとともに、今後の産地育成支援の進め方を討議する。	講師同席	
	14:40-15:00	閉会	研修に対する評価等についてアンケート調査を実施	事務局	